



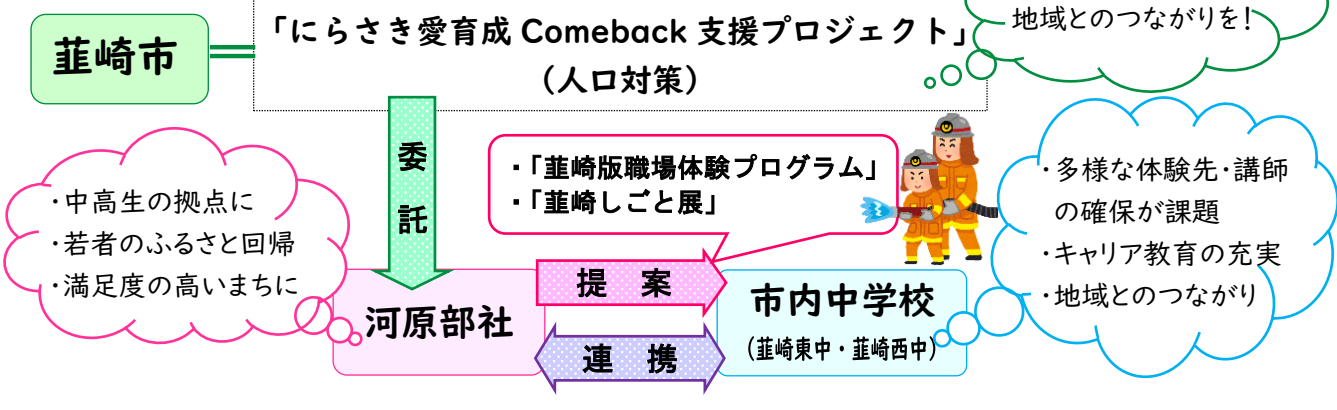
# 蕪崎市 (蕪崎東中) (蕪崎西中)

## NPO と連携した地域学校協働活動

キャリア教育が求められる昨今、職場体験学習は、生徒が実社会と関わる中で勤労観・職業観を養い、学び方・生き方を考えるのに極めて有効な学習活動である。

蕪崎市では、「にらさき愛育成 Comeback 支援プロジェクト」を **NPO 法人河原部社** に委託し、若者の蕪崎回帰をめざし様々な事業を行っている。地域と子どもたちをつなぐ一環として、2018 年より、河原部社が市内中学校の職場体験学習プロデュースを始め、今年で4年目を迎える（昨年度は感染症拡大防止のため、職場体験は中止）。河原部社では主に、生徒の体験事業先や職業講話の講師の斡旋などを請け負い、学校側と協議しながら意欲的に新たな企画立案するなど、協働してより良い体験学習づくりをしている。

### 連携イメージ



### 連携による効果

#### ① 職場体験学習

\* 地元企業を中心とした多数の体験事業所において、生徒の自立した体験学習の実現。

〈体験受入事業所数〉

4年目は計85社 (1,2年目は計40社)

・蕪崎東中 76社 (生徒数 138名)

・蕪崎西中 64社 (生徒数 105名)

\* 将来を想像する機会 (キャリア観の育成)

\* 企業活動を地域に知らせる機会

\* 将来地元で働ききっかけの創出

#### ② 「蕪崎しごと展」

\* 1,2年目は職業体験の事前学習と位置づけ、事業所代表者による「企業説明会」として実施。

\* 3,4年目は事後学習として、様々な業種の人材を講師として招き「キャリア学習」の一環として実施。

講師の仕事説明に留まらず、現在の仕事に至るまでの自己決定や仕事観についても語られ、生徒と講師相互のワークを取り入れるなど、生徒のキャリア意識を育てる一助となった。

個別面談は、一人約30分じっくりと

### R3 職場体験学習プロデュースの流れ

- 3月末 : 河原部社による企画提案
- 4月上旬 : 河原部社と2学年担当による打合せ
- 中旬 : 適職診断アンケートの実施 (各校)
- 5月上旬 : アンケート回収、個別面談実施
- 中旬 : 生徒と事業所のマッチング開始
- 6月中旬 : 事業所決定 (各校へ随時連絡)
- 7月上旬 : 職場体験学習実施
- 中旬 : 「蕪崎しごと展」開催
- 夏休み : 職場体験学習レポート作成



### R3 「しごと展」 & 個別面談の様子



今年の「しごと展」には、大学教授、外国語学校経営者・英会話講師、人材サービス会社経営者、カフェ経営者、電子機器製造企業役員、木工作家、NPO 法人代表・合同会社経営者が講師として参加。